

— No. 347 —



川越

広報

■発行所 川越市役所

■電話 川越(0492)24-8811(代)

■発行人 川越市長 加藤瀧二

■編集 企画部企画課

11月25日



ご参加ください

—南公民館のグループ学習—

種目	内容
煎茶教室	煎茶お手前の実習を通じ情緒性を養う
体操教室	体操実技の実習により美容と健康の増進をはかる
女性囲碁教室	囲碁の実技実習を通じ思考力の助長をはかる
書道教室	毛筆およびペン字実技実習を行うとともに書道史、書展見学、作品展などを実施
パレットクラブ	油絵の実習を通じ美術への理解を深める
手芸(佐賀錦)	佐賀錦の織り方実習を通じ色彩感覚を養うとともに、創作の楽しみを知る
コーラス教室	混声コーラスの実習により歌を楽しむとともにハイキング、パーティ、発表会などを行ない心のハーモニーを求める
民謡教室	民謡の実習によりストレスの解消を求めるとともに民謡の情緒性、歴史などを知る
洋裁教室	洋裁実技を身につけ、創作の楽しさを知るとともに家庭経済の一助とする
日本彩会	日本画の実習を通じ美的感覚を深め心の豊かさを養う
短歌通信教室	短歌の添削、批判などを通信で行い、歌道研究の指針とする
話し方友の会	話し方を通じ明るい人間関係を深める

*いずれのグループも会費は月500円~1,000円程度です。

*くわしいことは南公民館(☎43-0038)へお尋ねください。

使用料金が決まる

—大東公民館—

新館が完成した大東公民館は、十一月二十日から会議室などの使用料金が下表のようになります。なお、電話番号は④三二〇〇三二〇〇です。

大東公民館使用料 (単位:円)

調理実習室	講座	会議室①	室名		午前	午後	一日	夜間	昼夜一日
			②	①					
四〇〇	一〇〇	三五〇	三〇〇	四〇〇	七〇〇	五〇〇	一、〇〇〇		
五〇〇	一五〇	四五〇	三五〇	四五〇	八〇〇	五五〇	一、〇〇〇		
九〇〇	二五〇	六〇〇	五〇〇	六〇〇	一五〇	七〇〇	一、〇〇〇		
六〇〇	二〇〇	四五〇	四五〇	四五〇	九〇〇	九〇〇	一、〇〇〇		
一、二〇〇	三五〇								

*訂正! 十月二十五日号の三ページ、「大東公民館・出張所が完成」を④三四二六に訂正します。

の記事中、大東出張所の電話番号を④三四二六に訂正します。
石仏のつどい

お話とスライド

十二月十一日(火)午後七時から中谷公民館(☎43-1151)までに南古谷公民館へ定員三十人申込み! 十一月三十日までに南古谷公民館(☎43-1151)へ。

対象=一般婦人
デザイン教室へどうぞ
と
き=十一月五日・十九日
ところ=南古谷公民館

央公民館で「国東の石仏」と題して大護八郎先生のお話とスライドを上映します。

お誘い合わせて参加ください。

フラン教室へどうぞ

高校時代の古典の授業で、私は時折それまでの自分のことばの世界になかつたことばと感覚の対面をしたものがいた。その中でもときさかに残り、折にふれ胸をつことば、手持ちの古語辞典をひいてみるとそれが「かなし」なのだ。念のため

折り返す。高校時代の古典の授業で、私は時折それまでの自分のことばの世界になかつたことばと感覚の対面をしたものがいた。その中でもときさかに残り、折にふれ胸をつことば、手持ちの古語辞典をひいてみるとそれが「かなし」なのだ。念のため

私はクリスチャンではない。それ故に残り、折にふれ胸をつことば、手持ちの古語辞典をひいてみるとそれが「かなし」なのだ。念のため

私が心をもたない。それでも前作「沈黙」は終始私にカトリック作家としての作者の苦悩に満ちた顔をちらつかせ、心は微塵ももたない。そこには幕府の取調べ役人の中に作者の投影がち

らついて、その悲しみがあの作品の一

ある。一見捉え難いものないこと

ばかりであり、それでいてながらそれ

の場面で生き生きとそのありようを示す不思議な魅力をもつてはだ。

ここに一人の男がいた。どんなに努力しても到底この男の手には負えぬもないことを人びとが期待する。男はそれを不可能と知れば知るほど「かなしみ」かつその人びとを「いとおし」まずはいられない。一方人びとは男がどうすることもできなかつた結果をみて悔り、罵り、蔑みつつもなぜか彼を忘れることができない。

口惜しい。心で彼を罵り、無視することもできずに蔑みつづける人びと。彼には他の人びとのもちえない趣がある。」のに違いない。

作者遠藤周作が「沈黙」以来の沈黙を破つて書きあげた姉妹編「死海のほとり」で、キリストをこのよう

な男として描き出している。そこにいるキリストは全知全能の神どころか、まったくの無力なイエスであり

聖書をあまりに学問的に追求したがゆ

とに、イエスへの手がかりを失つた戸

田という人物の存在である。

ゴルゴタの丘に、イエスを磔刑にし

た十字架が立てられるとき、イエスの

エスは泣きながら「神がそう願われ

たのだから……神がそう願われたのだ

しかも忘れられずに苦惱しつづける弟

子のアルバヨが、人目をはばかりつ

かつての師の貧相な様を見守っている。

生きている間ついに奇蹟一つ起しそんな

かったその人が、今すさまじい悲鳴を

づけ、うちづけながら、あの人はお前

を棄てなかつた、棄てなかつた、棄て

なかつた、と繰返して云いつづけた。

愛が痛ましいまでに燃えあがつたと

き、人はただ祈るしか術がない。信仰

のあるなしでなく、愛のもつ愛しさゆ

えに。幸いなるかな、心清き人……か

つて奇蹟一つ起さなかつたその人が、

訪れる病人や老人を見とりながら吐い

た祈りを今繰りかえしつつ、アルバヨ

はほんの少し、あの人今日までの哀

しみがわかるよう気がした。

ふと私は石原吉郎が「望郷と海」で

シベリヤ各地の強制収容所生活で体験

なりはつきりと

した失語を

失語とはいはば仮死であり、それは

それなりに自然であり、極限の服従

の中での「平和」であり、思想その

もののひとつやすらぎである。

と説明した、そのやすらぎにも似た世

界が、哀しく私を包みゆく思いに満た

されていった。

かつて私は洗礼を受ける相談を持ち

かけた友が、近くの川で行われる禊の行事について語るのを、まったく別世

界の人を見る思いで見つめた日のこと

を思いだした。それ以来キリスト教の

いろいろな行為や祭りに反発を感じつ

づけていた私に、今手にしたこの本は

深い感動で感動するように語りかけてく

れた。「それでいいのです。そのまま

いいのですよ」と。

人間の求めめる愛とは、なんと愛しい

ものなのだろうか。

しかも忘れられずに苦惱しつづける弟

子のアルバヨが、人目をはばかりつ

かつての師の貧相な様を見守っている。

生きている間ついに奇蹟一つ起しそんな

かったその人が、今すさまじい悲鳴を

づけ、うちづけながら、あの人はお前

を棄てなかつた、棄てなかつた、棄て

なかつた、と繰返して云いつづけた。

愛が痛ましいまでに燃えあがつたと

き、人はただ祈るしか術がない。信仰

のあるなしでなく、愛のもつ愛しさゆ

えに。幸いなるかな、心清き人……か

つて奇蹟一つ起さなかつたその人が、

訪れる病人や老人を見とりながら吐い

た祈りを今繰りかえしつつ、アルバヨ

はほんの少し、あの人今日までの哀

しみがわかるよう気がした。

ふと私は石原吉郎が「望郷と海」で

シベリヤ各地の強制収容所生活で体験

なりはつきりと

した失語を

失語とはいはば仮死であり、それは

それなりに自然であり、極限の服従

の中での「平和」であり、思想その

もののひとつやすらぎである。

と説明した、そのやすらぎにも似た世

界が、哀しく私を包みゆく思いに満た

されていた。

かつて私は洗礼を受ける相談を持ち

かけた友が、近くの川で行われる禊の

行事について語るのを、まったく別世

界の人を見る思いで見つめた日のこと

を思いだした。それ以来キリスト教の

いろいろな行為や祭りに反発を感じつ

づけていた私に、今手にしたこの本は

深い感動で感動するように語りかけてく

れた。「それでいいのです。そのまま

いいのですよ」と。

人間の求めめる愛とは、なんと愛しい

ものなのだろうか。

しかも忘れられずに苦惱しつづける弟

子のアルバヨが、人目をはばかりつ

かつての師の貧相な様を見守っている。

生きている間ついに奇蹟一つ起しそんな

かったその人が、今すさまじい悲鳴を

づけ、うちづけながら、あの人はお前

を棄てなかつた、棄てなかつた、棄て

なかつた、と繰返して云いつづけた。

愛が痛ましいまでに燃えあがつたと

き、人はただ祈るしか術がない。信仰

のあるなしでなく、愛のもつ愛しさゆ

えに。幸いなるかな、心清き人……か

つて奇蹟一つ起さなかつたその人が、

訪れる病人や老人を見とりながら吐い

た祈りを今繰りかえしつつ、アルバヨ

はほんの少し、あの人今日までの哀

しみがわかるよう気がした。

ふと私は石原吉郎が「望郷と海」で

シベリヤ各地の強制収容所生活で体験

なりはつきりと

した失語を

失語とはいはば仮死であり、それは

それなりに自然であり、極限の服従

の中での「平和」であり、思想その

もののひとつやすらぎである。

と説明した、そのやすらぎにも似た世

界が、哀しく私を包みゆく思いに満た

されていた。

かつて私は洗礼を受ける相談を持ち

かけた友が、近くの川で行われる禊の

行事について語るのを、まったく別世

界の人を見る思いで見つめた日のこと

を思いだした。それ以来キリスト教の

いろいろな行為や祭りに反発を感じつ

づけていた私に、今手にしたこの本は

深い感動で感動するように語りかけてく

れた。「それでいいのです。そのまま

いいのですよ」と。

人間の求めめる愛とは、なんと愛しい

ものなのだろうか。

しかも忘れられずに苦惱しつづける弟

子のアルバヨが、人目をはばかりつ

かつての師の貧相な様を見守っている。

生きている間ついに奇蹟一つ起しそんな

かったその人が、今すさまじい悲鳴を

づけ、うちづけながら、あの人はお前

を棄てなかつた、棄てなかつた、棄て

なかつた、と繰返して云いつづけた。

愛が痛ましいまでに燃えあがつたと

き、人はただ祈るしか術がない。信仰

のあるなしでなく、愛のもつ愛しさゆ

えに。幸いなるかな、心清き人……か

つて奇蹟一つ起さなかつたその人が、

訪れる病人や老人を見とりながら吐い

た祈りを今繰りかえしつつ、アルバヨ

はほんの少し、あの人今日までの哀

しみがわかるよう気がした。

ふと私は石原吉郎が「望郷と海」で

シベリヤ各地の強制収容所生活で体験

なりはつきりと

した失語を

失語とはいはば仮死であり、それは

それなりに自然であり、極限の服従

の中での「平和」であり、思想その

もののひとつやすらぎである。

と説明した、そのやすらぎにも似た世

界が、哀しく私を包みゆく思いに満た

されていた。

かつて私は洗礼を受ける相談を持ち

かけた友が、近くの川で行われる禊の

行事について語るのを、まったく別世

界の人を見る思いで見つめた日のこと

を思いだした。それ以来キリスト教の

いろいろな行為や祭りに反発を感じつ

づけていた私に、今手にしたこの本は

深い感動で感動するように語りかけてく

れた。「それでいいのです。そのまま

いいのですよ」と。

人間の求めめる愛とは、なんと愛しい

ものなのだろうか。

しかも忘れられずに苦惱しつづける弟

子のアルバヨが、人目をはばかりつ